

事後評価シート

調査研究課題名	オープンスペースの実態把握と利活用に関する研究
担 当 者	研究調整官 山田直也、研究官 阪井暖子、研究官 神田真由美
① 当初目標と目標達成度	<p>人口減少・少子高齢が進展する我が国においては、宅地需要の鈍化に伴う空地の増加が今後の全国的傾向として予想される。こうした状況においては、空地の利活用方策として、必ずしも建築的利用に限定されない様々な視点も必要とされてきている。</p> <p>本研究では、空地の発生・消滅の実態について把握するとともに、空地の存在による利点・弊害について具体的に捉えながら、高齢社会や低炭素社会の形成、コンパクトで持続可能な都市構造への転換、豊かな質の高い都市生活の実現に寄与するオープンスペースとしての空地の新たな価値や利活用の可能性について調査検討を行うことを目標とした。</p> <p>その結果、空地の利活用方策の視点と方向性についての知見を得ることができたことにより、当初の目的は達成したものと考える。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>空地がもたらす様々な問題が顕在化し、社会資本整備審議会の小委員会等においても議論が進められる一方、空地の発生・消滅の実態とその存在がもたらす影響、また空地の利活用をめぐる新たな価値や視点との関連性についての体系的な検討は、これまで十分に行われてこなかった。</p> <p>本研究では三大都市圏を対象に、統計データ等により空地の発生・消滅の実態を把握するとともに、地方公共団体・地域住民・土地所有者へのアンケートにより空地に関する意識を把握することができた。</p> <p>また、国内外の空地の利活用に関する事例について、「新たな価値・利用形態」及び「利活用の方法論」の観点から整理を試みた。これらを踏まえ、空地の利活用に関する今後の方向性について検討を行うことができた。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>研究精度の向上を期するため、研究の進め方全般について横張真教授（東京大学）による助言の下で調査研究を実施した。また、データ分析に関しては雨宮護助教（東京大学）、海外調査に関しては岡部明子准教授（千葉大学）にそれぞれの確な助言や示唆を受け、成果が客観的なものとなるよう努めた。</p>
④ 成果と活用	<p>都市局をはじめとする関係部局等に成果を提供することで、今後の土地利用施策および都市政策の検討に資することが期待されるとともに、ホームページ等で広く公表することで、地方自治体等の空地等施策の検討に寄与できるものと考えられる。</p>
⑤ その他	<p>これまでの研究成果については、PRI Review 42号、43号に掲載している。また研究所の平成23年度研究発表会等においても成果の一部について報告を行っている。</p>